

ご挨拶

近畿教育オーディオロジー研究協議会
会長 山本 正幸
(大阪府立堺聴覚支援学校長)



本研究会の活動を継続、発展させるために、運営を組織的・集团的に支える観点から、事務局校を一定年間の輪番制とすることになり、今年度は大阪府立堺聴覚支援学校が大役を担うことになりました。これまで、長年にわたり会長校、事務局校としてご尽力くださいました奈良県立ろう学校に厚く御礼申し上げますと共に、今後とも本会の運営につきまして、代表委員はじめ会員の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、近畿教育オーディオロジー研究協議会は発足から14年目を迎えました。この間、講演会やテーマ毎の研修会を開催してまいりました。年々参加者が増え、最新情報を得て、活発な意見交換がなされてきました。「継続は力なり」と言いますが、本研究会の取り組みが近畿地区の聴覚障害教育に大きな成果を残してきたと確信しています。今年度も、会員の皆様のご要望やご意見を聞きながら、いっそう充実した研修会を企画してまいりますので、ふるってご参加ください。

ご承知のように、今年7月23日に中央教育審議会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」が「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」と題した報告を発表しました。そこでは、聴覚障害教育に関わって「聞こえにくさを補うことができるようにするための指導」と「聞こえにくさに応じた視覚的な情報提供」を中心に多岐に渡る提案がなされています。このことは、本研究会が従前から明らかにしてきたオーディオロジーの理論や聴覚活用の実践、情報保障に関する取り組みの成果でもあり、今後ますます重要な研究課題となっていくと思えます。

私たちの目標は、聴覚に障害がある子どもらが豊かな言語力を身につけ、将来の社会参加と自立に向けて生きる力を育てていくことです。会員の皆様がそれぞれの学校で実践・研究を積み上げられ、本研究会がさらに発展することを祈念いたしましてご挨拶といたします。

平成24年度総会、第14回講演会・講習会を開催しました！

8月21日の講演会の前に行われた総会において、事務局を大阪地区、兵庫地区、京滋奈和地区の3地域を3年ごとの輪番制で交代することになりました。平成24年度から平成26年度は、大阪府立堺聴覚特別支援学校の担当となります。

その他、会則の改定が提案され、①事務局次長を2名から3名に増員すること、また会則に会員資格についての項目がなかったため、新たに、「本会の会員は、本会の趣旨に賛同する近畿地区の公立学校に勤務する教職員によって組織する」という項目を設けることになりました。改定された会則はホームページに掲載していますのでご覧ください。

8月21日（火）、22日（水）に、大阪府立生野聴覚支援学校と大阪府社会福祉会館を会場に、第14回講演会・講習会を開催しました。今年は、子どもの発達支援を考えるSTの

会理事長の中川信子先生に「ことばの発達とコミュニケーション支援」と題してご講演をいただきました。230名以上の多くの方に参加していただき、例年通り活気あふれる会になりました。毎年、講習会会場としてお世話をいただいている大阪府立生野聴覚支援学校には、厚くお礼を申し上げます。

それでは、写真やアンケートからの感想を交えて、第14回講演会・講習会の様子を報告したいと思います。



～講演会～

『ことばの発達とコミュニケーション支援』

講師：子どもの発達支援を考えるSTの会

理事長 中川信子氏

8月21日（火）午前の講演会では、講師に子どもの発達支援を考えるSTの会理事長の中川信子先生に講演いただきました。『ことばの発達とコミュニケーション支援』というテーマを通じて、子どもの成長の発達支援をどのように大人が上手に応援していくのかということを知りやすくお話していただきました。

「はぐくむ」というお話では、子どもは自分の中に成長する力を持っているので、その育ちを大人“たち”が上手に見守ることが大切であること、その見守りの際に、支援者となる立場の人に必要な態度と資質や心構えなどを丁寧にお話いただき、教育現場における支援者の一人として改めて身の引き締まる思いがしました。

また、障がいの有無に関わらず、子どもに望ましい育て方は人類共通であるというお話では、ことばの育ちを応援していく上で普通の暮らしを丁寧にしていくことの重要性を具体的な事例を交えて、より詳しく、分かりやすく説明していただきました。

体が元気であること、こころがすこやかであること、「安定・安心」が守られているという環境の中で、子どもはことばの豊かな育ちを獲得していくということを色々な視点から教えていただき、大変勉強になりました。

ご講演後多くの感想をいただきました。その中から一部紹介させていただきます。

- ・聞いていてスッと入る内容だったので、あっという間の2時間の講演でした。今後の基本、自分の根底に持っておきたい内容で、勉強になりました。
- ・ことばの冰山を説明していただいたことで、やはり無理にことばを獲得させるのは、あとで問題が起こるということを確認しました。理解がないと、ことばは獲得されないということは、よく理解できました。
- ・誰にでもデコボコがある、というお話に、自分の子供の神経質さが気になって仕方がなかったので、ちょっとホッとしました。日々出会う、相談にくる子供たちにも、自分の息子たちにも、いつも口角を上げて接することを心がけ、人としての育ちを応援できるように頑張ります。
- ・主に小さな子どもへのかかわりについて、例え話を使って、本当に分かり易く聞き入ってしまいました。現在、縁あって幼児の教育に携わっている事、又、父親として自分の子どもを育てている身として、自分の日々の行動を振り返る機会となりました。
- ・全体発達について、ていねいにお話をきくことができ、分かりやすかったです。技術的な面だけでなく、支援する側にあるものが大事であることを改めて考えさせられました。



アンケートから

21日（火）の午後から22日（水）までの、1日半の講習会では、合計24コマの講座を開き、内容豊富に行えたと思います。紙面の都合上すべてを紹介することはできませんが、講座のいくつかの様子を紹介したいと思います。

～講習会について～1

「入門講座」

- ・基礎的なことをあらためて確認することができ、大変よかったです。

「自立活動（幼稚部）」

- ・普段幼稚部で指導されている内容を大変分かり易くご指導頂きました。ありがとうございました。言葉の大切さと聾学校の教員が持つべき使命感を持ち、職務に努めることを再認しました。”見られている”意識を持って、責任と誠意ある教育活動をしていきたいと思えます。

「はじめての聴力検査」

- ・聴力検査をさせていただき、今後に役立てていけたらと思います。また、検査もさせていただき、子どもの気持ち（集中し続ける大変さなど）も少しわかった気がします。

「FM補聴器」

- ・実技もあって普段あまり触れることのないFM補聴器のことが少しわかったように思います。先生の説明もわかりやすかったです。事例もいくつか出て、活用の問題点も出されて、それを含めて子どもへの支援に生かしていけたらと思います。いろいろなメーカーの補聴器や送信機もあって、それぞれの利点や短所もわかって良かったです。

「補聴器のフィッティング」

- ・とても細かいお話しでわかりやすく、資料もわかりやすく勉強になりました。自分できちんと理解するにはまだまだ時間がかかるので、見ている子どもに合わせて考えていきたいと思えました。

「補聴器と私」

- ・普段、疑問に思っていたことを、いろいろと話していただきました。補聴器のユーザーであっても、とらえ方、使い方は様々なのだということがわかりました。

「難聴学級の取り組み（教科指導）」

- ・他校の色々な取り組みをお聞きし、大変参考になりました。絵画語彙発達検査など子どもたちの国語力を把握するためにやってみようかなと思えました。

「聴覚生理」

- ・「教育現場と医療現場の連携は本当に大切」という言葉が目の前の子どもに返っていく大切なことだと思うので非常に心に残りました。

「オーディオグラムと補聴器の特性表」

- ・初歩的な内容をていねいに教えていただき、よくわかりました。



「自立活動（幼稚部）」



「補聴器と私」



「難聴学級の取り組み（教科指導）」



「聴能の評価と聴覚学習」



「通常学級への支援」



「福祉制度」

～講習会について～2

「聴能評価と聴覚学習」

- ・ビデオで実際の場面が見られたのでとてもわかりやすかったです。聴能の奥深さを感じました。先生の子どもへの思い入れや、人間味がにじみでていたように思います。

「通常学級への支援」

- ・この分科会はぜひ来年も続けて頂ければと思います。小中学校の先生をお誘いしやすいという面もあります。

「人工内耳（基礎・応用）」

- ・新しい機械の話や、内耳奇形、聴神経形成不全、オーディトリニューロパチーのことについてもお話がきけてよかったです。
- ・実践的に学べました。人工内耳の勉強ができる場が少ないので、いい機会でした。

「補聴器・人工内耳の保守管理」

- ・とてもわかりやすく、ていねいにお話くださいました。資料もありがとうございました。

「情報保障（IPトーク）」

- ・丁寧なマニュアルと詳しい説明で、自分でやっていた分が分からなかったこともよく理解することができました。これから職場で生かしていこうと思います。

「福祉制度」

- ・具体例もあり、地域による違いもわかり、細かいお話しが聞けて良かったです。

「難聴学級の取り組み（障害認識）」

- ・すぐに通級で使えそうです。体験談もとても参考になりぜひもっと聞きたいと思いました。

「理解学習教材」

- ・ていねいに教えていただきました。CDもいただき、ありがとうございました。

「運営について」「来年の希望」についても多くのご意見、ご感想をいただきました。
今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

なお、受付で販売しておりました「バッテリープロジェクト」支援ステッカーですが、75枚×300円＝22,500円でした。200円のカンパを含めると合計22,700円になり、これを日本教育オーディオロジー研究会に送金いたしました。ご協力ありがとうございました。

今後の活動計画

平成24年	11月3日（土）	秋の講演会（大阪府社会福祉会館） 「聴覚障害児の日本語の力を高めるために」 澤 隆史 先生（東京学芸大学）
	12月 下旬	冬の学習会案内、機関誌41号発行
平成25年	1月25日（金）	第3回代表委員会（和歌山ろう学校）
	26日（土）	冬の学習会（和歌山勤労者総合センター） 「（仮）聴覚障害児教育における早期教育・療育・支援のあり方について ～教育と医療の立場から～」 田中 美郷 先生（田中美郷教育研究所所長） 南村 洋子 先生（全国早期支援研究協議会会長）
	3月 下旬	集録第14号発行・機関誌42号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 松川 雅一

〒591-8034

TEL：072-257-5471

大阪府堺市北区百舌鳥陵南町1丁目

FAX：072-257-3310

大阪府立堺聴覚特別支援学校内

メール：kinki02062@hotmail.co.jp